

施策評価調書(1)

評価対象年度 令和2年度

めざす姿	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち”
施策名	3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進
施策関係課	(環境部)資源循環課・産業廃棄物対策課・新戸塚環境センター建設室・収集業務課・戸塚環境センター・朝日環境センター・リサイクルプラザ・鳩ヶ谷衛生センター

●施策の基本方針(目標)

廃棄物の発生抑制や適正な処理、循環資源利用の促進により、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷をできる限り低減した循環型社会の形成を推進します。

●目標指標

指標①	名称	この施策の推進が図られていると感じる人の割合(市民意識調査)			単位	%	指標の種別	成果
	目標値	現状値を上回る(令和2年度)		現状値	47.1(平成27年度)		達成状況	
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度(目標年度)		
	実績値	46.3	45.2	45.9	42.4	41.6		
	名称	1人1日あたりの廃棄物排出量			単位	g/人・日	指標の種別	結果
指標②	目標値	864(令和2年度)		現状値	876(平成26年度)		達成状況	
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度(目標年度)		
	実績値	850	832	826	826	826		
	名称				単位		指標の種別	
	目標値			現状値			達成状況	
指標③	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度(目標年度)		
	実績値							
	名称				単位		指標の種別	
	目標値			現状値			達成状況	
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度(目標年度)		
指標④	実績値							
	名称				単位		指標の種別	
	目標値			現状値			達成状況	
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度(目標年度)		
	実績値							
指標⑤	名称				単位		指標の種別	
	目標値			現状値			達成状況	
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度(目標年度)		
	実績値							

	(単位:千円)	平成28年度決算額	平成29年度決算額	平成30年度決算額	令和元年度決算額	令和2年度決算額
事業額	事業費	4,828,931	4,815,665	4,934,426	5,167,061	5,247,302
	概算人件費	1,372,020	1,382,656	1,468,414	1,466,123	1,466,676
	総事業費	6,200,951	6,198,321	6,402,840	6,633,184	6,713,978

*前年度に「完了」「休止」「廃止」となった事業額についても合算されています。

総合評価	評価結果	単位施策ごとの評価結果			総合評価の区分
	B	単位施策① 53	単位施策② 54	単位施策③	結果(平均値)が55以上:A 結果(平均値)が50以上55未満:B 結果(平均値)が40以上50未満:C 結果(平均値)が40未満:D
	(前回評価結果)	単位施策④	単位施策⑤	結果(平均値)	
	B			53.5	

施策評価調書(2)

評価対象年度 令和2年度

施策を構成する実施計画事業の状況

(単位:千円)

① 廃棄物の減量化・再資源化									
事業コード	事業名称	担当課	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度の総評価	令和3年度の実施方向性
			事業費(決算額)	事業費(決算額)	事業費(決算額)	事業費(決算額)	事業費(決算額)		
			概算人件費	概算人件費	概算人件費	概算人件費	概算人件費		
43100101	クリーン推進員事業	環境部	14,203	16,146	14,215	15,680	13,917	54	現状維持で実施
		資源循環課	32,800	4,680	2,607	4,898	3,476		
43100201	全市一斉クリーンタウン作戦事業	環境部	773	675	655	944	938	50	現状維持で実施
		収集業務課	5,576	4,524	4,582	4,582	4,582		
43100301	散乱防止及び環境美化促進事業	環境部	289	202	199	440	212	51	現状維持で実施
		収集業務課	9,020	7,488	7,584	7,584	7,584		
43100401	不法投棄対策事業	環境部	3,128	5,940	9,077	17,700	40,338	52	拡充して実施
		収集業務課	36,900	33,540	33,970	33,970	33,970		
43100501	エコリサイクル推進事業所登録事業	環境部	46	49	46	45	45	54	現状維持で実施
		資源循環課	8,200	7,800	632	632	948		
43100601	廃棄物対策審議会経費	環境部	152	268	261	428	225	53	現状維持で実施
		資源循環課	2,050	1,950	1,501	1,975	2,528		
43100701	路上喫煙防止事業	環境部	9,777	10,624	10,518	12,513	15,132	54	拡充して実施
		資源循環課	4,182	4,290	7,505	6,715	10,349		
43100801	廃棄物減量啓発事業	環境部	10,071	10,527	10,542	9,506	7,157	54	拡充して実施
		資源循環課	24,600	23,400	15,879	13,825	6,794		
43100901	レジ袋削減事業	環境部	292	307	396	154	262	49	縮小して実施
		資源循環課	8,200	15,600	3,397	2,765	3,555		
43100951	事業系廃棄物対策事業	環境部	1,165	834	614	428	623	54	現状維持で実施
		資源循環課	24,600	23,400	24,095	24,885	29,151		
43101001	ごみ処理事業	環境部	887	861	1,032	1,247	1,217	52	現状維持で実施
		収集業務課	1,230	936	948	948	948		
43101101	資源回収団体助成事業	環境部	136,302	130,013	124,038	118,226	111,033	55	現状維持で実施
		リサイクルプラザ	4,100	3,900	3,950	3,950	3,950		
43101201	3R推進活動等助成事業	環境部	68,253	68,235	68,200	68,076	67,370	53	現状維持で実施
		リサイクルプラザ	2,870	3,510	3,555	3,555	3,555		
43101301	一般ごみ収集運搬事業	環境部	848,965	844,863	845,106	860,889	920,525	52	現状維持で実施
		収集業務課	503,840	476,880	482,880	482,880	482,880		
43101401	粗大ごみ収集運搬事業	環境部	130,723	134,049	132,924	134,596	149,846	52	拡充して実施
		収集業務課	4,100	3,900	3,950	3,950	3,950		
43101501	小動物死体収集運搬事業	環境部	7,086	5,250	5,795	7,478	7,685	52	現状維持で実施
		収集業務課	6,560	6,240	6,320	6,320	6,320		
43101601	資源物回収事業	環境部	454,194	451,300	451,514	459,352	505,979	52	拡充して実施
		収集業務課	493,360	473,520	475,720	475,720	475,720		
43101701	環境啓発事業	環境部	2,202	2,250	2,068	2,489	2,017	56	現状維持で実施
		リサイクルプラザ	9,020	7,410	7,505	7,505	7,505		
43101801	リサイクルプラザ健康浴室等運営費	環境部	61,386	62,501	68,834	84,827	100,488	50	縮小して実施
		リサイクルプラザ	5,740	5,460	5,530	5,530	5,530		
43101901	再商品化委託事業	環境部	22,772	23,351	21,576	20,414	23,055	52	現状維持で実施
		リサイクルプラザ	2,460	2,340	2,370	2,370	2,370		
43102001	資源物等選別事業	環境部	173,442	171,902	178,159	179,428	192,793	56	現状維持で実施
		リサイクルプラザ	23,780	22,620	22,910	22,910	22,910		

単位施策名 ② 廃棄物の適正処理の推進									
事業コード	事業名称	担当課	平成28年度 事業費 (決算額)	平成29年度 事業費 (決算額)	平成30年度 事業費 (決算額)	令和元年度 事業費 (決算額)	令和2年度 事業費 (決算額)	令和 2年度 の 総評価	令和 3年度 の実施 方向性
			概算人件費	概算人件費	概算人件費	概算人件費	概算人件費		
43200101	車両経費	環境部	105,987	112,020	110,594	102,791	41,789	54	現状維持 で実施
		収集業務課	2,870	3,510	3,555	3,555	3,555		
43200111	産業廃棄物対策事業	環境部	—	—	16,857	5,782	3,725	58	現状維持 で実施
		産業廃棄物対策課	—	—	49,375	43,845	42,265		
43200121	土砂堆積対策事業 (令和元年度から産業廃棄物対策事業 に統合)	環境部	—	—	102	—	—	—	—
		産業廃棄物対策課	—	—	7,900	—	—		
43200201	戸塚環境センター 整備事業	環境部	62,680	30,024	86,458	84,033	51,993	54	現状維持 で実施
		新戸塚環境センター建設室	26,076	31,746	73,628	73,786	73,786		
43200301	厚生会館施設管理費	環境部	12,911	13,180	14,157	15,582	26,643	50	現状維持 で実施
		戸塚環境センター	1,476	624	632	632	632		
43200501	戸塚環境センター プラント運営費	環境部	836,819	800,621	856,029	860,975	889,108	54	現状維持 で実施
		戸塚環境センター	38,294	133,068	134,774	134,774	134,774		
43200701	戸塚環境センター ごみ処理事業	環境部	184,385	186,915	210,905	238,191	225,176	54	現状維持 で実施
		戸塚環境センター	16,400	8,268	8,374	8,374	8,374		
43200801	朝日環境センター プラント運営費	環境部	1,234,044	1,290,049	1,254,573	1,359,416	1,358,427	54	現状維持 で実施
		朝日環境センター	18,860	17,940	18,170	18,170	18,170		
43201001	朝日環境センター ごみ処理事業	環境部	206,675	192,029	180,403	194,425	203,424	56	現状維持 で実施
		朝日環境センター	4,100	3,900	3,950	3,950	3,950		
43201101	鳩ヶ谷衛生センター ごみ処理事業	環境部	35,449	38,436	37,198	38,018	41,002	54	現状維持 で実施
		鳩ヶ谷衛生センター	27,140	28,138	28,309	25,465	25,465		
43201251	し尿処理施設管理費	環境部	186,081	195,214	205,157	213,386	209,346	54	現状維持 で実施
		鳩ヶ谷衛生センター	15,416	14,664	14,852	15,405	15,405		
43201301	し尿収集事業	環境部	17,792	17,030	16,224	15,601	15,497	52	現状維持 で実施
		鳩ヶ谷衛生センター	8,200	7,410	7,505	7,505	7,505		
43201351	一般廃棄物処理基本計画 策定事業 (令和2年度休止)	環境部	—	—	—	9,240	—	—	—
		資源循環課	—	—	—	2,923	—		
43201401	PCB廃棄物調査指導 事業	環境部	—	—	—	34,761	20,315	58	現状維持 で実施
		産業廃棄物対策課	—	—	—	10,270	14,220		

実施計画事業評価調査

評価対象年度 令和2年度

事業コード	43100101	事業名称	クリーン推進員事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	資源循環課	問い合わせ先	048-228-5370	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 7 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	クリーン推進員	市民	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	地域住民と行政が一体となって活動することにより、ごみの排出抑制・減量化・資源化を推進するとともに環境美化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ルール違反、不法投棄に関する随時の報告、要望、相談への対応 ・年4回の報告書に対する対応 ・活動に必要な研修会の実施 	
令和2年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	<ul style="list-style-type: none"> ・報告、相談への対応(随時) ・紙面研修(コロナ禍でのブロック別研修会中止に伴う代替措置)で、アンケート回答率約70% 	項目	実績
		ブロック別研修会(令和2年度は紙面研修)	643
事業の成果【定性的評価】	研修会の開催により、クリーン推進員の理解や意識が深まった。また、行政と市民をつなぐ地域のリーダーとして、啓発活動をした結果、ごみの排出抑制・減量化・資源化が推進され、あわせて環境美化が図れた。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	講習会		指標・目標値の説明(算定式)	日頃の活動の意義と資質の向上を図るため、オンライン研修を実施する。				
	単位	回	指標の種別	活動	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値		1		1	1	1	1	1
	実績値・達成状況	1	達成	1	達成	0	未達成		
指標②	名称	ブロック別研修会		指標・目標値の説明(算定式)	市内を10のブロックに分け、活動に密接な研修会を行う。令和2年度は、コロナウイルス感染防止の観点から、紙面研修を実施した。				
	単位	回	指標の種別	活動	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値		1		1	1	1	1	1
	実績値・達成状況	1	達成	1	達成	1	達成		

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	02目	005細目	03細々目	クリーン推進員事業					
年度	平成30年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度	令和4年度					
予算額(A)	14,945	16,449		14,799		16,637	14,799					
決算額(B)=(C)+(D)	14,215	15,680		13,917								
財源※	特定財源(C)	0		0		0	0					
	一般財源(D)	14,215	15,680		13,917		16,637	14,799				
概算人件費(E)	2,607	4,898		3,476		4,898	2,923					
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.33	0.00	0.62	0.00	0.44	0.00	0.62	0.00	0.37	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	16,822		20,578		17,393		21,535	17,722				

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
54 /60	ごみ対策に対する市民のニーズは年々高くなっており、必要不可欠な事業である。クリーン推進の報告書には、外国籍市民に関するもの、町会・自治会非会員に関するものなど、他課にまたがる要望等が多くみられ、対応の難易度が高くなってきている。今後は関係各課と連携を図りながら効率的で効果的な対応を行う。	3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施
		5年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和2年度

事業コード	43100201	事業名称	全市一斉クリーンタウン作戦事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	収集業務課	問い合わせ先	446-7525	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 12 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	川口市飲料容器等の散乱の防止に関する条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市民等(市内各町会・自治会及び事業所)	同左	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)	
	1 市民による地域環境の清潔保持の習慣化 2 ごみのポイ捨ての撲滅	1 毎年11月の第3日曜日に、市民が自宅周辺の地域のポイ捨てごみを拾い、市が指定する一時集積所まで持参する。 2 上記方法で回収されたごみを市が回収し、市の施設で処理する。	
令和2年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	1 実施日 令和2年11月15日(日) 2 一時集積所 市内101箇所(主に公園等公共施設) 3 上記一時集積所に市職員を1名ずつ配置し、市民が持参したごみをまとめ、回収した。	項目	実績
事業の成果【定性的評価】	参加した市民に対し、地域環境の美化に対する意識を高め、そのための活動を習慣化させる動機を持たせることに成功した。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	全市一斉クリーンタウン作戦参加人数			指標・目標値の説明(算定式)	市内各町会・自治会加入世帯数(「広報かわぐち」配布部数による)の約二割				
	単位	人	指標の種別	結果		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値					39,050	34,062	38,050	38,050	38,050
	実績値・達成状況	13,860	未達成	13,930	未達成	14,500	未達成			
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)					
	単位		指標の種別			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値									
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	04目	005細目	01細々目	全市一斉クリーンタウン作戦事業			
年度	平成30年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度	令和4年度			
予算額(A)	1,012	1,350		1,228		1,432	1,432			
決算額(B)=(C)+(D)	655	944		938						
財源※	特定財源(C)	0		0		0	0			
	一般財源(D)	655	944		938		1,432	1,432		
概算人件費(E)	4,582	4,582		4,582		4,582	4,582			
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.58	0.00	0.58	0.00	0.58	0.00	0.58	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	5,237	5,526		5,520		6,014	6,014			

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	11 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	どちらともいえない	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	11 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
50 /60	これまでは市広報誌・ポスター・キャスティブジョン・きりり川口情報メール・HPなどによりPRを行ってきた。今後もコミュニティビジョン(第一本庁舎 2階・3階)の活用などPR方法について工夫し、より多くの市民が参加することを旨とする。	3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施
		5年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和2年度

事業コード	43100301	事業名称	散乱防止及び環境美化促進事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	収集業務課	問い合わせ先	446-7525	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 12 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	川口市飲料容器等の散乱の防止に関する条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市と「まち美化促進プログラム」に基づく協定を取り交わした団体	市民	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)	
	1 快適かつ安全な歩行空間の確保 2 地域環境の清潔の保持	1 市と協定を取り交わした団体が、協定に基づく指定された区域を清掃する。 2 市は、団体に対して、清掃用具の貸与、活動によって発生した廃棄物の回収等によって協力する。	
令和2年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	1 市と協定取り交わし済みの団体が、自主的に地域清掃活動を実施した。 2 市は、団体からの要請により発生した廃棄物を回収・処理するとともに、清掃用具の貸与、ボランティア保険への加入によって、団体に協力した。	項目	実績
事業の成果【定性的評価】	市民による自主的な清掃活動の実施により、地域環境の美化及び市民のポイ捨て防止の意識を向上させることができた。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	環境美化活動団体数			指標・目標値の説明(算定式)	市内10地区に対し各4団体ずつとして設定				
	単位	団体	指標の種別	結果						
	目標値	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度
	実績値・達成状況	40		40		40		40		40
	実績値・達成状況	20	未達成	17	未達成	17	未達成			
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)					
	単位		指標の種別							
	目標値	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	04目	005細目	02細々目	散乱防止及び環境美化促進事業			
年度	平成30年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		
予算額(A)	369	606		296		476		476		
決算額(B)=(C)+(D)	199	440		212						
財源※	特定財源(C)	0		0		0		0		
	一般財源(D)	199		440		212		476		
概算人件費(E)	7,584		7,584		7,584		7,584		7,584	
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.96	0.00	0.96	0.00	0.96	0.00	0.96	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	7,783		8,024		7,796		8,060		8,060	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	どちらともいえない	13 /15	有効性	期待どりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	12 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	足りなかった	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
51 /60	環境美化団体の意識の高揚及び実施区域の拡大のため、これまでの周知方法に加え新たにPRESS530に掲載したが、コロナウィルスの蔓延によりPRESS530が十分に配布されなかった。今後も参加団体活動の活性化と団体数の増加を図る必要がある。	3年度 現状維持で実施 4年度 現状維持で実施 5年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 令和2年度

事業コード	43100401	事業名称	不法投棄対策事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	収集業務課	問い合わせ先	446-7525	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 14 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの) 市民等	受益者(最終的に受益を受ける人)	同左
事業の概要	事業の目的(何のために) 粗大ごみ等の不法投棄及び市の排出ルールが守られないごみ集積所に対し、環境の改善及び保持を図る。	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか) 1 職員によるパトロール及び不法投棄物等の回収 2 業務委託による監視・回収 3 「川口市ごみ不法投棄監視ウィーク」における啓発活動	
令和2年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか) 1 職員によるパトロール及び不法投棄物等の回収を、土日祝日を除き毎日実施した。 2 業務委託による監視を、合計208日間実施した。 3 「川口市ごみ不法投棄監視ウィーク」において、市内各駅頭にて啓発活動を実施した。	主な実績	項目 実績 単位
事業の成果【定性的評価】	ルール違反が特にひどいごみ集積所において、職員によるパトロール及び回収並びに委託による定点観測カメラの設置や定曜日以外にも収集を行い、ごみが散乱しないよう周知PRに努めた。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	不法投棄処理件数(市民からの通報による)			指標・目標値の説明(算定式)	前年度処理実績の95パーセント				
	単位	件	指標の種別	結果						
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度				
	実績値・達成状況	4,893	未達成	5,551	未達成	7,632	未達成			
指標②	名称	不法投棄処理量			指標・目標値の説明(算定式)	前年度処理実績の95パーセント				
	単位	トン	指標の種別	結果						
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度				
	実績値・達成状況	199.57	未達成	224.72	未達成	231.08	未達成			

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	04目	005細目	03細々目	不法投棄対策事業			
年度	平成30年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度	令和4年度			
予算額(A)	9,748	18,728		43,266		33,315	41,199			
決算額(B)=(C)+(D)	9,077	17,700		40,338						
財源※	特定財源(C)	0		17		17				
	一般財源(D)	9,077	17,700		40,321		33,298			
概算人件費(E)	33,970	33,970		33,970		33,970	33,970			
従事職員人数(人)	常勤	再任用	4.30	0.00	4.30	0.00	4.30	0.00	4.30	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	43,047		51,670		74,308		67,285		75,169	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	11 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	不明	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	十分行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
52 /60	ルール違反ごみを無くすことは非常に難しいため、週末の夜間に警備会社の警備員による不法投棄監視業務委託や、委託業者による定められた曜日以外における不法投棄回収業務委託、市職員によるパトロール、看板・バリケードの設置、チラシの配付などを継続して行う必要がある。	3年度 拡充して実施 4年度 現状維持で実施 5年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 令和2年度

事業コード	43100501	事業名称	エコリサイクル推進事業所登録事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	資源循環課	問い合わせ先	228-5370	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 7 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	川口市エコリサイクル推進事業所登録実施要綱

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	市民及び登録事業所	同左		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)		
	地球環境にやさしい事業所を「川口市エコリサイクル推進事業所」として認定し、市民がそれを利用することにより、循環型社会の形成に寄与する。	市内でごみの減量やリサイクル、地球温暖化対策を積極的に推進している事業所を「川口市エコリサイクル推進事業所」として認定、登録標識を交付し地域に貢献する企業として広く市民に周知する。		
令和2年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	<ul style="list-style-type: none"> 制度の啓発ポスターを作成し、登録事業所、公共施設及び市内掲示板に掲示した。 川口市公式ホームページで「環境にやさしい事業所」として、広く市民に周知した。 	項目	実績	単位
		ポスター作成	1,250	枚
ホームページで周知	1	回		
事業の成果【定性的評価】	事業者自ら廃棄物の適正処理及び地球温暖化対策に関する積極的な取り組みがみられた。			

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	ポスターの掲示			指標・目標値の説明(算定式)	制度の啓発ポスターを作成し、登録事業者、市内掲示板及び公共施設に掲示(1回/年)				
	単位	回	指標の種別	活動		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値		1		1	1	1	1	1	1
	実績値・達成状況	1	達成	1	達成	1	達成			
指標②	名称	ホームページでの周知			指標・目標値の説明(算定式)	川口市公式ホームページで「環境にやさしい事業所」として、広く市民に周知				
	単位	年	指標の種別	活動		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値		1		1	1	1	1	1	1
	実績値・達成状況	1	達成	1	達成	1	達成			

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	02目	002細目	02細々目	エコリサイクル推進事業所登録事業			
年度	平成30年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度	令和4年度			
予算額(A)	56	56		58		55	58			
決算額(B)=(C)+(D)	46	45		45						
財源※	特定財源(C)	0		0		0	0			
	一般財源(D)	46	45		45		55	58		
概算人件費(E)	632	632		948		948	948			
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.08	0.00	0.08	0.00	0.12	0.00	0.12	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	678	677		993		1,003	1,006			

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
54 /60	事業者及び市民への周知を図るため、ホームページやPRESS530を活用した広報活動を展開する。	3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施
		5年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 令和2年度

事業コード	43100601	事業名称	廃棄物対策審議会経費		事業区分	通常事業
担当	環境部	資源循環課	問い合わせ先	228-5370	新規・継続	継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 7 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	廃棄物対策審議会委員	市民	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)	
	一般廃棄物の減量及び適正な処理に関する事項を審議する。	学識経験者、市議会議員、市民、事業者、関係行政機関の職員を委員として、年3回程度の審議会を実施する。	
令和2年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	・審議会を3回開催 ・路上喫煙禁止地区指定、川口市路上分煙基本計画及び川口市路上喫煙実施計画について審議 ・戸塚環境センター施設整備事業について報告	項目	実績 単位
		川口市廃棄物対策審議会	3 回
事業の成果【定性的評価】	路上喫煙禁止地区指定、川口市路上分煙基本計画及び川口市路上喫煙実施計画について、パブリックコメントの実施結果を含めて、委員から様々な意見を頂戴し、審議ができた。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	1人1日当りごみ排出量(集団資源回収含む)		指標・目標値の説明(算定式)	排出量(集団資源回収を含む)÷人口÷365日 (第7次川口市一般廃棄物処理基本計画)					
	単位	g/人・日	指標の種別	結果						
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度				
	実績値・達成状況	884	874	814	808	802				
	実績値	826	達成	826	達成	826	未達成			
指標②	名称			指標・目標値の説明(算定式)						
	単位	指標の種別								
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度				
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	02目	003細目	01細々目	廃棄物対策審議会経費			
年度	平成30年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度	令和4年度			
予算額(A)	305	406		406		305	305			
決算額(B)=(C)+(D)	261	428		225						
財源※	特定財源(C)	0		0		0				
	一般財源(D)	261	428		225		305			
概算人件費(E)	1,501	1,975		2,528		2,528		2,528		
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.19	0.00	0.25	0.00	0.32	0.00	0.32	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	1,762	2,403		2,753		2,833		2,833		

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	12 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	活用の余地なし			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
53 /60	法定により審議会を設置し、令和2年度は路上喫煙禁止地区指定、川口市路上分煙基本計画及び川口市路上喫煙実施計画について審議や戸塚環境センター施設整備事業について報告を行った。今後も、一般廃棄物の減量及び適正な処理に関する事項や市の施策等について、委員の意見を聴く重要な会議であることから継続して開催する。	3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施
		5年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 令和2年度

事業コード	43100701	事業名称	路上喫煙防止事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	資源循環課	問い合わせ先	228-5370	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 17 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	川口市路上喫煙の防止等に関する条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市民並びに市内滞在者及び通過者	左に同じ	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	道路等における喫煙マナー及び環境美化意識の向上を図り、吸い殻の散乱を防止し、安全で快適な歩行空間及び清潔な地域環境を確保する。	・路上喫煙禁止地区に毎日(午前・午後を隔日、三が日は休み)2名のパトロール員を配置し、川口駅は3時間、西川口駅、東川口駅は2時間、路上喫煙禁止の啓発と指導を行っている。 ・市民等全体への啓発活動として、毎年12月に川口、西川口、東川口の各駅の禁止地区及び蕨駅周辺でキャンペーンを実施。	
令和2年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	・路上喫煙禁止地区内で、委託による喫煙者への、指導、路面シールなどの設置を行った。 ・12月1日から4日にかけて川口駅、西川口駅、東川口駅、蕨駅東口の川口市域で啓発キャンペーンを実施した。 ・既存喫煙所をたばこの煙対策として改修を行った。	項目	実績
事業の成果【定性的評価】	巡回パトロールによる指導人数は、目標に達成しなかったものの、啓発活動を継続的に実施した結果、一定の効果は見られている。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	路上喫煙禁止地区内での喫煙所指導人数			指標・目標値の説明(算定式)	前年度指導実績の90%(100人未満切り上げ)			
	単位	人	指標の種別	結果					
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度			
	実績値・達成状況	2,158	達成	2,137	未達成	2,163	未達成		
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)				
	単位		指標の種別						
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度			
	実績値・達成状況								

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	02目	004細目	01細々目	路上喫煙防止事業			
年度	平成30年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		
予算額(A)	11,809	12,541		15,608		49,949		56,505		
決算額(B)=(C)+(D)	10,518	12,513		15,132						
財源※	特定財源(C)	0		0		0				
	一般財源(D)	10,518		12,513		15,132		49,949		
概算人件費(E)	7,505		6,715		10,349		10,349		10,349	
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.95	0.00	0.85	0.00	1.31	0.00	1.31	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	18,023		19,228		25,481		60,298		66,854	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
54 /60	路上喫煙禁止区内での喫煙者への指導件数は目標を達成したが、路上喫煙防止についての要望等は、多く寄せられており喫煙マナー向上に向けた啓発を継続していく必要がある。また、健康増進法の一部改正に伴う国や他自治体の動向を注視し煙の苦情のある喫煙所改修や路上喫煙禁止地区拡大など今後の事業に反映していく必要がある。	3年度	拡充して実施
		4年度	拡充して実施
		5年度	拡充して実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 令和2年度

事業コード	43100801	事業名称	廃棄物減量啓発事業			事業区分	通常事業
担当	環境部	資源循環課	問い合わせ先	048-228-5370	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市民及び事業者	市民	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	資源循環型社会実現のための情報提供を行い、ごみの減量やリサイクルの推進を図ることで、市民一人ひとりにごみ問題や資源の有効利用の理解を深めてもらうため。	<ul style="list-style-type: none"> 環境部広報紙PRESS530を年3回発行 ごみの分別ガイドアプリの公開 家庭ごみの分け方・出し方のパンフレット作成 ごみの減量啓発のパンフレット作成 環境問題に対する周知や啓発活動 	
令和2年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	<ul style="list-style-type: none"> 家庭ごみの分け方・出し方のパンフレット作成 環境部広報紙PRESS530を年3回発行 環境問題に関するチラシ、啓発グッズ等の作成・配布 フードドライブの実施 	項目	実績
事業の成果【定性的評価】	新型コロナウイルス感染症の防止の観点から「家庭ごみの分け方・出し方」の内容を一部改訂して発行した。環境フォーラムでフードドライブを実施し、食品ロスを減らすなどの市民意識醸成を図ることができた。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	3R月間各種イベントの参加者数			指標・目標値の説明(算定式)	3R推進月間中に行われるイベント参加者数の過去3年間の平均値(令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、イベントは行われなかった。)				
	単位	人	指標の種別	結果		令和2年度	令和3年度	令和4年度		
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度				
	実績値・達成状況	1,000	800	532						
指標②	名称	家庭ごみ収集日情報メール配信登録者数			指標・目標値の説明(算定式)	前年度の数値に600人(50人×12ヶ月)の数値を足したものと令和3年3月1日までは登録解除者を含む件数、令和3年4月1日からは登録解除者を除く件数を掲載。				
	単位	人	指標の種別	結果		令和2年度	令和3年度	令和4年度		
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度				
	実績値・達成状況	734 未達成	389 未達成	0 未達成						
	名称	家庭ごみ収集日情報メール配信登録者数			指標・目標値の説明(算定式)	前年度の数値に600人(50人×12ヶ月)の数値を足したものと令和3年3月1日までは登録解除者を含む件数、令和3年4月1日からは登録解除者を除く件数を掲載。				
	単位	人	指標の種別	結果		令和2年度	令和3年度	令和4年度		
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度				
	実績値・達成状況	4,725	5,844	6,768	6,040					
	実績値・達成状況	5,244 達成	6,168 達成	5,440 未達成						

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	02目	005細目	01細々目	廃棄物減量啓発事業				
年度	平成30年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度			
予算額(A)	11,288	11,319		9,176		12,816		12,816			
決算額(B)=(C)+(D)	10,542	9,506		7,157							
財源※	特定財源(C)	0		0		0		0			
	一般財源(D)	10,542		9,506		7,157		12,816			
概算人件費(E)	15,879		13,825		6,794		6,794		6,794		
従事職員人数(人)	常勤	再任用	2.01	0.00	1.75	0.00	0.86	0.00	0.86	0.00	
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	26,421		23,331		13,951		19,610		19,610		

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
54 /60	食品ロスや脱プラスチックなど、全国的に注目度の高い環境問題に関する啓発も市で行っていく必要がある。今現在も行っているごみの減量啓発と関連させて広く市民に啓発を行い、環境問題への関心を高めたい。	3年度 拡充して実施 4年度 拡充して実施 5年度 拡充して実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 令和2年度

事業コード	43100901	事業名称	レジ袋削減事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	資源循環課	問い合わせ先	048-228-5370	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 20 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	川口市レジ袋の大幅な削減に向けた取組の推進に関する条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	市民、事業者	市民		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)		
	消費者及び事業者により削減可能なレジ袋の大幅な削減をすることにより、ごみ発生源での減量の促進を目的としている。	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業者から年2回提出される「レジ袋削減取組結果報告書」により削減状況の把握。(削減取組は令和2年度に提出された「レジ袋削減取組計画書」に基づき令和2年度から令和4年度の3ヵ年で取り組んでいる。) 市民に対するマイバッグ利用促進等の啓発。 		
令和2年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業者からレジ袋削減計画書と、年2回削減状況報告書の提出を受けた。 市内掲示板上にポスターの掲示 	項目	実績	
		事業所より年2回、取組報告書の提出	2	回
事業の成果【定性的評価】	レジ袋の削減を図ることで、廃棄物の発生量や温室効果ガス排出量の抑制、市民及び事業者の意識向上を図り、もって地球温暖化防止及び廃棄物循環型ごみゼロ社会の形成に寄与する。	市内掲示板上にポスターの掲示	1,010	箇所

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	レジ袋辞退率			指標・目標値の説明(算定式)	条例に基づき、提出された概況確認書及び下半期報告書の実績値(単位:%)				
	単位	%	指標の種別	結果						
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度				
	実績値・達成状況	25.70	未達成	27.30	未達成	73.40	達成			
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)					
	単位		指標の種別							
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度				
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	02目	005細目	02細々目	レジ袋削減事業			
年度	平成30年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		
予算額(A)	409	394		355		0		0		
決算額(B)=(C)+(D)	396	154		262						
財源※	特定財源(C)	0		0		0		0		
	一般財源(D)	396		154		262		0		
概算人件費(E)	3,397		2,765		3,555		3,555		3,555	
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.43	0.00	0.35	0.00	0.45	0.00	0.45	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	3,793		2,919		3,817		3,555		3,555	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	どちらともいえない	13 /15	有効性	期待どおりの成果	期待以下	11 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	12 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	活用の余地なし			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
49 /60	令和2年7月からレジ袋有料化が義務化された。それ以後も、一定の期間において条例に基づき、事業を継続していくが、今後は、国や県の動向に注視し、本事業の方向性を考えていく必要がある。	3年度 縮小して実施 4年度 現状維持で実施 5年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和2年度

事業コード	43100951	事業名称	事業系廃棄物対策事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	資源循環課	問い合わせ先	228-5370	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	昭和 47 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	直営	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	市内で事業活動を行なう全ての事業者	市民		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)		
	廃棄物の発生抑制、再生利用の促進などの適正処理を啓発し、事業者が適正処理をすることにより、地域の生活環境の保全、公衆衛生の向上及び循環型社会の構築を推進する。もって市民の健康で快適な生活を確保する。	<ul style="list-style-type: none"> 一般廃棄物収集運搬業(ごみ・粗大、し尿・汚泥)の許可、指導 浄化槽清掃業の許可、指導 事業者への適正処理の啓発、指導 新規事業所の再生利用対象物、廃棄物保管場所の設置届の受理 		
令和2年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	NTTタウンページデータによる新規登録事業者、川口商工会議所会員等にリーフレットを配布し適正処理を促した。また、川口駅、西川口駅周辺の店舗訪問指導を行うとともに、保健所の食品営業許可更新講習会において、廃棄物の適正処理の説明を実施。	項目	実績	単位
		適正処理周知(リーフレット配布)	1,916	件
		店舗訪問指導	536	件
食品営業許可更新講習会においての説明	63	件		
事業の成果【定性的評価】	事業系一般廃棄物の適正処理の周知が図られた。			

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	一般廃棄物収集運搬業許可業者契約増減数			指標・目標値の説明(算定式)	市内事業者と一般廃棄物収集運搬業許可業者の契約総件数の5%を次年度の目標値とする。					
	単位	件	指標の種別	結果							
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度					
	実績値・達成状況	380	達成	461	達成	308	達成				
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)						
	単位	指標の種別									
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度					
	実績値・達成状況										

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	02目	005細目	04細々目	事業系廃棄物対策事業			
年度	平成30年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度	令和4年度			
予算額(A)	1,726	586		766		813	853			
決算額(B)=(C)+(D)	614	428		623						
財源※	特定財源(C)	0		22		193				
	一般財源(D)	614		428		601	620			
概算人件費(E)	24,095		24,885		29,151		29,151		29,151	
従事職員人数(人)	常勤	再任用	3.05	0.00	3.15	0.00	3.69	0.00	3.69	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	24,709		25,313		29,774		29,964		30,004	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
54 /60	事業系一般廃棄物の処分方法について、適正処理を認識していない事業者があり、これらの事業者に適正処理の方法を周知徹底することが課題である。平成31年度より条例を改正し、過料規定を新設。今後も適正排出に努めていく。	3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施
		5年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和2年度

事業コード	43101001	事業名称	ごみ処理事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	収集業務課	問い合わせ先	446-7525	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 12 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、特定家庭用機器再商品化法、使用済自動車の再資源化等に関する法律

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	全部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市内ごみステーションに排出された不法投棄物、ルール違反ごみ等のうち、市の施設で処理できないもの	市民等	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	市内ごみステーションに排出された不法投棄物のうち、市の施設で処理することができないものの処理ルートを確認し、不法投棄物回収事業の円滑な実施を図るもの	1 「家電リサイクル法」対象の家庭用機器の処理 2 「自動車リサイクル法」対象の自動二輪等の処理 3 自動車タイヤ、廃金属、消火器等処理困難物の処理	
令和2年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	1 「家電リサイクル法」対象機器1.1トン进行处理した。 2 その他、自動車タイヤ148本、廃金属等産業廃棄物1,750kg、消火器73本进行处理した。	項目	実績
事業の成果【定性的評価】	回収された不法投棄物进行处理することにより、市の廃棄物処理施設の空間的余裕を確保し、市による不法投棄物の回収事業を円滑に実施できるようにした。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	実績値・達成状況					
指標②	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	実績値・達成状況					

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	04目	006細目	01細々目	ごみ処理事業	
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度			
予算額(A)	1,562	1,432	1,237	1,620	1,620			
決算額(B)=(C)+(D)	1,032	1,247	1,217					
財源※	特定財源(C)	0	0	0	0			
	一般財源(D)	1,032	1,247	1,217	1,620			
概算人件費(E)	948	948	948	948	948			
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.12	0.00	0.12	0.00	0.12	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	1,980	2,195	2,165	2,568	2,568			

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	9 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	不明	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
52 /60	少量ではあるが、処理しきれない回収物があり、その処理方法を検討する必要がある。	3年度 現状維持で実施 4年度 現状維持で実施 5年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和2年度

事業コード	43101101	事業名称	資源回収団体助成事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	リサイクルプラザ	問い合わせ先	228-5306	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	昭和 53 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	川口市集団資源回収団体助成金交付要綱

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	補助金・負担金	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	集団資源回収登録団体(町会・自治会・子供会・婦人会・PTA等)	市民		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)		
	廃棄物の減量及び再資源化を促進し、ごみ問題に対する市民の意識の向上に資すること。	資源物(紙類、繊維類)を各団体で回収し、回収した資源物1kgに対して10円を助成している。申請は3か月ごと年4回に分けて申請する。		
令和2年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	各団体が回収した資源物の回収量1kgに対して10円を助成した。	項目	実績	単位
		助成金	4	回
事業の成果【定性的評価】	廃棄物の減量及び再資源化が促進され、ごみ問題に対する市民の意識の向上とごみ処理に係る経費の削減に繋がった。			

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	団体登録数			指標・目標値の説明(算定式)	交付対象となる団体数(単位:団体)				
	単位	件	指標の種別	結果		令和2年度	令和3年度	令和4年度		
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度				
	実績値・達成状況	427	達成	432	達成	430	未達成			
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)					
	単位	件	指標の種別	結果		令和2年度	令和3年度	令和4年度		
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度				
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	07目	006細目	03細々目	資源回収団体助成事業			
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度					
予算額(A)	135,847	124,889	114,388	117,920	117,920					
決算額(B)=(C)+(D)	124,038	118,226	111,033							
財源※	特定財源(C)	0	0	0	0					
	一般財源(D)	124,038	118,226	111,033	117,920					
概算人件費(E)	3,950	3,950	3,950	3,950	3,950					
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.50	0.00	0.50	0.00	0.50	0.00	0.50	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	127,988	122,176	114,983	121,870	121,870					

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	12 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	15 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	活用の余地なし			対象者への周知	十分行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
55 /60	新聞紙の購読数の減少と各新聞社の回収事業により、新聞紙の回収実績が年々減少しているため交付額の減少が顕著である。さらに、売却単価が下落しているため、回収業者の業績悪化による廃業が目立つようになり、その影響を受けて登録団体の減少も懸念されている。	3年度 現状維持で実施 4年度 現状維持で実施 5年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 令和2年度

事業コード	43101201	事業名称	3R推進活動等助成事業			事業区分	通常事業
担当	環境部	リサイクルプラザ	問い合わせ先	228-5306	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 19 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	川口市3R推進活動等助成金交付要綱

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	補助金・負担金
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	町会及び自治会(地方自治法(昭和22年法律第67号)第260条の2第1項に規定する地縁による団体のうち、市長が認めるもの)	市民	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	地域住民が相互に協力して行う3R推進活動等に対して助成することにより、廃棄物問題に対する市民の意識の向上を図り、もって循環型社会の構築に資するとともに、地域コミュニティ意識の醸成に寄与することを目的とする。	地域住民が相互に協力して行う3R推進活動(一般廃棄物の減量化、再使用及び再資源化の推進に資する活動)並びに一般廃棄物の適正処理の推進、集積所の整備及び美化、不法投棄の防止、地域環境の美化に資する活動に対して、助成を行った。	
令和2年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	町会・自治会1団体に対して、加入世帯数×400円を助成(千円未満は切捨て)	項目	実績 単位
		助成金の交付	1 回
事業の成果【定性的評価】	市民の廃棄物問題に対する意識の向上、循環型社会の構築及び地域コミュニティ意識の醸成を図ることができた。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	交付団体数			指標・目標値の説明(算定式)	交付対象となる町会・自治会の団体数(単位:団体)				
	単位	団体	指標の種別	結果						
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度				
	実績値・達成状況	231	231	231	232					
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)					
	単位	指標の種別								
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度				
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	07目	007細目	01細々目	3R推進活動等助成事業			
年度	平成30年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		
予算額(A)	70,446	69,173		68,925		68,822		68,822		
決算額(B)=(C)+(D)	68,200	68,076		67,370						
財源※	特定財源(C)	0		0		0				
	一般財源(D)	68,200	68,076		67,370		68,822			
概算人件費(E)	3,555	3,555		3,555		3,555		3,555		
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.45	0.00	0.45	0.00	0.45	0.00	0.45	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	71,755	71,631		70,925		72,377		72,377		

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	12 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	活用の余地なし			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
53 /60	本事業を通じて、廃棄物問題に対する更なる市民の意識向上とごみの減量化・地域の環境美化への実効性を高めるため、3Rの推進について継続的に情報の発信と提供を行う。	3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施
		5年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和2年度

事業コード	43101301	事業名称	一般ごみ収集運搬事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	収集業務課	問い合わせ先	251-1174	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例、同施行規則、関連計画

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市民が排出する家庭系の一般ごみ	市民	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	廃棄物を適正に処理し、地域の清潔を保持することで、生活環境の保全及び公衆衛生の向上並びに資源が循環して利用される都市の形成を図り、もって市民の健康で快適な生活を確保することを目的とする。	一般廃棄物処理実施計画に基づき、市内から排出される家庭系一般ごみを、収集車両により収集し中間処理施設へ運搬する。	
令和2年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	家庭系から排出される一般ごみの収集運搬	項目	実績 単位
事業の成果【定性的評価】	適正な処理を行い、公衆衛生の向上に寄与することができた。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	実績値・達成状況					
指標②	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	実績値・達成状況					

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	04目	004細目	01細々目	一般ごみ収集運搬事業	
年度	平成30年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度
予算額(A)	845,835	861,260		920,526		925,390		925,390
決算額(B)=(C)+(D)	845,106	860,889		920,525				
財源※	特定財源(C)	0		0		0		
	一般財源(D)	845,106	860,889		920,525		925,390	
概算人件費(E)	482,880	482,880		482,880		482,880		482,880
従事職員人数(人)	常勤	再任用	60.00	2.40	60.00	2.40	60.00	2.40
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	1,327,986		1,343,769		1,403,405		1,408,270	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	11 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
52 /60	収集業務は、通常の収集のほか、不法投棄対策の支援業務も実施した。今後、委託化基本方針に基づき、直営の適正な人員配置と委託化をあわせて実施していく。また、事故防止に係る事業を継続していく。	3年度	現状維持で実施
		4年度	効率化して実施
		5年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和2年度

事業コード	43101401	事業名称	粗大ごみ収集運搬事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	収集業務課	問い合わせ先	251-1174	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例、同施行規則、関連計画

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	全部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市民が排出する家庭系の粗大ごみ	市民	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	廃棄物を適正に処理し、地域の清潔を保持することで、生活環境の保全及び公衆衛生の向上並びに資源が循環して利用される都市の形成を図り、もって市民の健康で快適な生活を確保することを目的とする。	一般廃棄物処理実施計画に基づき、市内から排出される家庭系粗大ごみを、予約の受付を行い、戸別収集中間処理施設へ運搬する。	
令和2年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	家庭から排出される粗大ごみの収集受付及び収集運搬	項目	実績 単位
事業の成果【定性的評価】	粗大ごみの収集受付を行い取り残しのないよう実施した。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	実績値・達成状況					
指標②	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	実績値・達成状況					

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	04目	004細目	02細々目	粗大ごみ収集運搬事業			
年度	平成30年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		
予算額(A)	134,343	138,608		149,846		157,594		157,594		
決算額(B)=(C)+(D)	132,924	134,596		149,846						
財源※	特定財源(C)	65,998	69,761		87,257		68,722			
	一般財源(D)	66,926	64,835		62,589		88,872			
概算人件費(E)	3,950	3,950		3,950		3,950		3,950		
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.50	0.00	0.50	0.00	0.50	0.00	0.50	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	136,874	138,546		153,796		161,544		161,544		

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	11 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
52 /60	当事業が、継続的・効率的に実施できるよう調査研究を行う必要がある。また、個人情報を取り扱っていることから、さらなる管理の強化に努める必要がある。 なお、粗大ごみ収集手数料については、収集運搬に係る費用と市民の応益負担を視野に入れながら、調査研究する必要がある。	3年度	拡充して実施
		4年度	現状維持で実施
		5年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和2年度

事業コード	43101501	事業名称	小動物死体収集運搬事業			事業区分	通常事業
担当	環境部	収集業務課	問い合わせ先	251-1174	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例、同施行規則、関連計画

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市民や通行者から、道路上等にある小動物の死体の通報を受付するとともに、収集運搬を行う。	市民及び市内通行者	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	廃棄物を適正に処理し、地域の清潔を保持することで、生活環境の保全及び公衆衛生の向上並びに資源が循環して利用される都市の形成を図り、もって市民の健康で快適な生活を確保することを目的とする。	一般廃棄物処理実施計画に基づき、市内から寄せられる通報や連絡を受け、小動物の死体を収集し、中間処理施設へ運搬する。	
令和2年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	犬・猫等の死体収集	項目	実績 単位
事業の成果【定性的評価】	速やかに対応できた。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	実績値・達成状況					
指標②	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	実績値・達成状況					

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	04目	004細目	03細々目	小動物死体収集運搬事業			
年度	平成30年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度	令和4年度			
予算額(A)	7,461	8,001		7,686		8,703	8,703			
決算額(B)=(C)+(D)	5,795	7,478		7,685						
財源※	特定財源(C)	227	265		230		259			
	一般財源(D)	5,568	7,213		7,455		8,444			
概算人件費(E)	6,320	6,320		6,320		6,320	6,320			
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.80	0.00	0.80	0.00	0.80	0.00	0.80	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	12,115	13,798		14,005		15,023	15,023			

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	11 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行わなかった			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
52 /60	道路上などの公共施設からの収集に関する案件の他、庭先など私有地からの収集に関する案件が増えており、事前の聞き取りや十分な説明を行うことで市民ニーズに対応していく。	3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施
		5年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和2年度

事業コード	43101601	事業名称	資源物回収事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	収集業務課	問い合わせ先	251-1174	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例、同施行規則、関連計画

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市民が排出する家庭系の資源物	市民	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	廃棄物を適正に処理し、地域の清潔を保持することで、生活環境の保全及び公衆衛生の向上並びに資源が循環して利用される都市の形成を図り、もって市民の健康で快適な生活を確保することを目的とする。	一般廃棄物処理実施計画に基づき、市内から排出される家庭系資源物を収集車両により収集し、中間処理施設へ運搬する。	
令和2年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	家庭から排出される資源物の収集運搬業務	項目	実績 単位
事業の成果【定性的評価】	適正な収集を行い、ごみ減量化・資源の有効活用に寄与することができた。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	実績値・達成状況					
指標②	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	実績値・達成状況					

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	04目	004細目	04細々目	資源物回収事業
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
予算額(A)	452,193	459,846	505,980	537,896	537,896		
決算額(B)=(C)+(D)	451,514	459,352	505,979				
財源※	特定財源(C)	0	0	0	0		
	一般財源(D)	451,514	459,352	505,979	537,896		
概算人件費(E)	475,720	475,720	475,720	475,720	475,720		
従事職員人数(人)	常勤 再任用	59.00 2.60	59.00 2.60	59.00 2.60	59.00 2.60	59.00 2.60	59.00 2.60
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	927,234	935,072	981,699	1,013,616	1,013,616		

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	11 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
52 /60	集積所の数が増加している中、適正な人員配置及び配車により効率化収集を行っている。しかし、今後も集積所の増加により、業務量の増加が懸念されることから、委託化基本方針に基づき効果的な配置等を検討して実施していく。また、資源物の持ち去り防止監視業務については令和元年の拡充した監視日数を継続して防止にあたる。	3年度 拡充して実施 4年度 効率化して実施 5年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 令和2年度

事業コード	43101701	事業名称	環境啓発事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	リサイクルプラザ	問い合わせ先	228-5306	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 14 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律第4条

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	市民、市外からの来館者	施設利用者、受講者		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)		
	資源循環型社会実現のための情報提供を行い、ごみ減量やリサイクルの推進を図るもの。また、地球温暖化防止の取組みについての情報提供も行うもの。	ボランティアスタッフとの協働による啓発施設の管理・運営		
令和2年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	施設見学、無償リサイクル品橋渡しコーナー、リサイクル家具類販売、おもちゃの病院、リサイクル工作展、ごみまるクイズ、図書コーナー、啓発ビデオ上映など	項目	実績	単位
		施設見学	358	人
		リサイクル家具類販売	687	点
無償リサイクル品引渡し	18,321	人		
事業の成果【定性的評価】	無償リサイクル品橋渡しコーナーや定例イベント、施設見学や展示による情報提供を実施し、ごみ減量とリサイクルの推進を図ることができた。			

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	無償リサイクル品橋渡しコーナー来場者数			指標・目標値の説明(算定式)	リサイクルプラザ3階のリサイクルショップに来場し、品物を持ち帰った人の数、(1日1人1回1点持ち帰り)の年間合計。目標値は平成27年度実績による。				
	単位	人	指標の種別	結果						
	目標値	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度
	実績値・達成状況	31,695 達成		30,926 達成		18,321 未達成				
指標②	名称	リサイクル家具類販売入札者数			指標・目標値の説明(算定式)	リサイクル家具類販売の入札人数の年間合計。毎月第3土曜日から第4日曜日に実施。目標値は70人×12回。				
	単位	人	指標の種別	結果						
	目標値	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度
	実績値・達成状況	640 未達成		460 未達成		895 達成				

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	07目	003細目	01細々目	環境啓発事業			
年度	平成30年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		
予算額(A)	2,844	3,509		2,589		2,583		2,583		
決算額(B)=(C)+(D)	2,068	2,489		2,017						
財源※	特定財源(C)	912		630		810				
	一般財源(D)	1,156		1,387		1,773				
概算人件費(E)	7,505		7,505		7,505		7,505		7,505	
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.95	0.00	0.95	0.00	0.95	0.00	0.95	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	9,573		9,994		9,522		10,088		10,088	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
56 /60	循環型社会の実現、地球温暖化防止などを啓発すべく、関連イベントを継続的に実施するのはもちろんのこと、これらのPRを一層拡充するため、更なる来館者の増加を図ってゆく。	3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施
		5年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 令和2年度

事業コード	43101801	事業名称	リサイクルプラザ健康浴室等運営費			事業区分	通常事業
担当	環境部	リサイクルプラザ	問い合わせ先	228-5306	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 14 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	朝日環境センター余熱利用施設設置及び管理条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市民、特にごみ焼却処理施設周辺地域住民(市内、足立区等)	施設利用者(市民、市民以外)	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	朝日環境センター余熱利用施設「サンアール朝日」の運営を通して、周辺地域住民を中心とした市民に対し、心身の健康増進、ふれあい交流の場を提供する。	朝日環境センター余熱利用施設「サンアール朝日」の運営及び維持管理 ーサンアール朝日施設内容ー 20mプール、大プール、幼児用プール、ジャグジー浴、露天プール、採暖室、男女浴槽、サウナ、水風呂、日本間(休憩室) 等	
令和2年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	サンアール朝日の営業(222日) 施設/設備の修繕(59件) 濾過機等設備点検(年4回) 各種設備機器のメンテナンス(常時) ほか	項目	実績 単位
		令和2年度利用者数	13,541 人
事業の成果【定性的評価】	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で年度当初は休館を余儀なくされたが、事前予約制による人数制限等により営業を行い、延べ13,541人の方々に利用していただくことができた。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	年間利用者数			指標・目標値の説明(算定式)	入場者数の集計結果。利用券販売数と回数券利用者数の合計。				
	単位	人	指標の種別	結果		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値					100,000	100,000	100,000		
	実績値・達成状況	91,706	未達成	77,046	未達成	13,541	未達成			
指標②	名称	年間使用料金			指標・目標値の説明(算定式)	利用券販売額(1年度の合計)				
	単位	円	指標の種別	結果		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値					38,097,000	38,097,000	38,097,000		
	実績値・達成状況	35,292,130	未達成	29,542,440	未達成	5,094,240	未達成			

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	07目	004細目	01細々目	リサイクルプラザ健康浴室等運営費				
年度	平成30年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度	令和4年度				
予算額(A)	69,451	84,845		100,836		91,667	98,304				
決算額(B)=(C)+(D)	68,834	84,827		100,488							
財源※	特定財源(C)	40,005	40,465		40,924		32,220				
	一般財源(D)	28,829	44,362		59,564		59,447				
概算人件費(E)	5,530	5,530		5,530		5,530	5,530				
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.70	0.00	0.70	0.00	0.70	0.00	0.70	0.00	
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	74,364	90,357		106,018		97,197	103,834				

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	どちらともいえない	13 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	低かった	11 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
50 /60	オープンから19年以上が経過し、設備等の経年劣化による故障が多発してきているため、利益還元が滞らないよう、予防的な修繕や改修等を含め維持管理を徹底していく。また、接客等について、運営スタッフの意識向上に努め、利用者満足度の向上を図る。	3年度	縮小して実施
		4年度	現状維持で実施
		5年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 令和2年度

事業コード	43101901	事業名称	再商品化委託事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	リサイクルプラザ	問い合わせ先	228-5306	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 14 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	容器包装リサイクル法(容リ法)

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	容器包装廃棄物のうちガラスびん、プラスチック製容器包装、ペットボトル	市民	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	容器包装リサイクル法(容リ法)に基づき、廃棄物のうち容器包装廃棄物の再商品化を指定法人「公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会」(容リ協会)に委託することにより、廃棄物の減量及び再利用を促進し、もって循環型社会の構築を図る。	分別収集適合物のうち、事業者負担分は容リ協会との無償引取り契約、また市町村負担分については、有償の委託契約を締結、さらに引き取り対象外のカレット残渣についても有償で民間に再商品化を委託する。	
令和2年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	ガラスびんの一部を売却し、ガラスびん(茶色の一部、その他の色)、プラスチック製容器包装、ペットボトル(一部)を容リ協会へ引き渡した。ガラスびん分別後のカレット残渣については、民間の事業者に再商品化(路盤材利用)を委託している。	項目	実績 単位
		ガラスびん(茶色の一部、その他の色)引渡量	1,092,530 kg
		プラスチック製容器包装引渡量	3,279,790 kg
事業の成果【定性的評価】	市が容リ協会へ引き渡した結果として、ガラスびん(茶色の一部、その他色)、プラスチック製容器包装、ペットボトルの再商品化が可能となった。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	カレット残渣の発生抑制			指標・目標値の説明(算定式)	カレット残渣量(トン)÷びん搬入量(トン) = カレット残渣率 %				
	単位	トン	指標の種別	成果						
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度				
	実績値・達成状況	31.22	達成	29.62	達成	27.41	達成			
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)					
	単位		指標の種別							
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度				
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	07目	006細目	01細々目	再商品化委託事業			
年度	平成30年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		
予算額(A)	26,727	24,042		23,081		22,565		22,565		
決算額(B)=(C)+(D)	21,576	20,414		23,055						
財源※	特定財源(C)	21,576		23,055		22,565				
	一般財源(D)	0		0		0				
概算人件費(E)	2,370		2,370		2,370		2,370		2,370	
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.30	0.00	0.30	0.00	0.30	0.00	0.30	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	23,946		22,784		25,425		24,935		24,935	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	11 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
52 /60	資源の再商品化にあたり、老朽化のため機械による選別では、以前のような精度が保たれなくなっている。ガラスびんを始め各種資源物の選別方法の改善を引き続き検討するとともに、老朽化した機械の更新計画を進める。	3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施
		5年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 令和2年度

事業コード	43102001	事業名称	資源物等選別事業			事業区分	通常事業
担当	環境部	リサイクルプラザ	問い合わせ先	228-5306	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 14 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	容器包装リサイクル法(容リ法)

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	廃棄物のうち資源物11品目	市民		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)		
	容器包装リサイクル法(容リ法)に基づき、廃棄物のうち容器包装廃棄物を再商品化のため指定法人「公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会」に引き渡し、また入札により民間に売却を行なうことで、廃棄物の減量及び再利用を促進し、もって循環型社会の構築を図る。	プラスチック製容器包装、びん、飲料カン、金属類、ペットボトル、紙類の異物を取り除き、再商品化のため容リ協会へ引渡し及び民間に売却するための選別を行う。		
令和2年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	資源物11品目の手選別を行い、ガラスびん白色と茶色の一部、飲料かん、金属類、ペットボトル、繊維類、紙バック、新聞、雑誌雑紙、段ボール、紙製容器包装を売却した。ガラスびん茶色の一部とその他色、プラスチック製容器包装、ペットボトルを容リ協会へ引き渡した。	項目	実績	単位
		飲料かん(アルミ)売却量	1,006,480	kg
		飲料かん(スチール)売却量	260,670	kg
ペットボトル売却、引渡数量	1,981,990	kg		
事業の成果【定性的評価】	搬入された資源物を選別することで、ガラスびん(茶色の一部とその他色)、プラスチック製容器包装、ペットボトルの一部を容リ協会へ引き渡し、それ以外の資源物を売却できた。			

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	飲料かんリサイクル率の向上			指標・目標値の説明(算定式)	売却量 (kg) ÷ 飲料カン搬入量 (kg) = リサイクル率 %				
	単位	%	指標の種別	成果						
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度				
	実績値・達成状況	82.12	達成	82.93	達成	83.47	達成			
指標②	名称	ペットボトルリサイクル率の向上			指標・目標値の説明(算定式)	売却、引渡数量 (kg) ÷ ペットボトル搬入量 (kg) = リサイクル率 %				
	単位	%	指標の種別	成果						
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度				
	実績値・達成状況	85.22	達成	85.82	達成	84.58	未達成			

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	07目	006細目	02細々目	資源物等選別事業				
年度	平成30年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度	令和4年度				
予算額(A)	179,881	181,968		194,438		205,433	193,305				
決算額(B)=(C)+(D)	178,159	179,428		192,793							
財源※	特定財源(C)	178,159	179,428		164,626		205,433				
	一般財源(D)	0	0		28,167		0				
概算人件費(E)	22,910	22,910		22,910		22,910	22,910				
従事職員人数(人)	常勤	再任用	2.90	0.00	2.90	0.00	2.90	0.00	2.90	0.00	
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	201,069	202,338		215,703		228,343	216,215				

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
56 /60	ペットボトルは、中身の飲料やキャップ、ラベルを取り除いたものでなければ、資源物として引き渡すことが出来ないため、市民への周知を図るべくプレス530への掲載、施設見学者への呼びかけを継続的に実施する。並行して老朽化した機械の更新計画を進める。	3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施
		5年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和2年度

事業コード	43200101	事業名称	車両経費	事業区分	通常事業
担当	環境部	収集業務課	問い合わせ先	251-1174	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 23 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ② 廃棄物の適正処理の推進
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例、同施行規則、関連計画

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	直営	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	直営の車両に係る管理、運営事業	市民		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)		
	廃棄物を適正に処理し、地域の清潔を保持することで、生活環境の保全及び公衆衛生の向上並びに資源が循環して利用される都市の形成を図り、もって市民の健康で快適な生活を確保することを目的とする。	一般ごみ、資源物に係る収集運搬		
令和2年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	当該事業は公共性が高く、適正な業務の施行には安定かつ継続的な収集体制の確保と維持が必要不可欠であり、廃棄物の収集を円滑、効率よく安全に行うために、車検及び点検整備等を実施。	項目	実績	単位
事業の成果【定性的評価】	市民全体を対象としている事業のため、公平性に関しては適正である。			

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	塵芥車等の買替台数			指標・目標値の説明(算定式)	塵芥車買替計画に基づく買替台数(令和2年度～6年度該当なし)			
	単位	台	指標の種別	活動					
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度			
	実績値・達成状況	8	8	0	0	0			
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)				
	単位		指標の種別						
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度			
	実績値・達成状況								

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	04目	003細目	01細々目	車両経費			
年度	平成30年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度	令和4年度			
予算額(A)	119,825	110,626		46,924		42,690	42,690			
決算額(B)=(C)+(D)	110,594	102,791		41,789						
財源※	特定財源(C)	542		480		480				
	一般財源(D)	110,052		41,309		42,210				
概算人件費(E)	3,555		3,555		3,555		3,555			
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.45	0.00	0.45	0.00	0.45	0.00	0.45	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	114,149		106,346		45,344		46,245		46,245	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
54 /60	平成23年度から、塵芥車買替計画に基づき、車両の入替を行っている。環境や安全に配慮した車両を導入していくほか、災害等に適正な運用ができるよう、燃料区分のバランスを考慮しながら入替を行っている。令和元年度で買替計画が終了し、令和7年度から第二次塵芥車買替計画を開始する。	3年度 現状維持で実施 4年度 現状維持で実施 5年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 令和2年度

事業コード	43200111	事業名称	産業廃棄物対策事業		事業区分	通常事業
担当	環境部	産業廃棄物対策課	問い合わせ先	228-5380	新規・継続	継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 30 年度 ~ 平成 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ② 廃棄物の適正処理の推進
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、使用済自動車の再資源化等に関する法律、川口市廃棄物処理施設の設置等の手続に関する条例、川口市土砂の堆積等の規制に関する条例

2 事業概要

事務分類	法定受託事務	実施形態	一部委託												
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの) ・産業廃棄物処理業者、産業廃棄物排出事業者 ・その他、産業廃棄物に関する事業者 ・自動車リサイクル法登録業者・許可業者 ・土砂を堆積する事業者	受益者(最終的に受益を受ける人) ・市民等													
事業の概要	事業の目的(何のために) ・産業廃棄物等の適正処理及び処理施設等の適正な維持管理を確保することにより、良好な生活環境の保全を図る。 ・土砂を堆積する行為に対して、必要な規制を行うことで無秩序な土砂堆積を防止し、市民の生活の安全の確保と、良好な生活環境の保全を図る。	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか) ・許可申請等に対する審査 ・不適正処理の防止のための指導 ・土砂の堆積行為に係る規制													
令和2年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか) ・産業廃棄物処理業者等の許可申請等に対する審査 ・産業廃棄物処理施設等の適正な維持管理の指導 ・土砂の堆積に係る許可申請、定期報告等に対する審査 ・産業廃棄物等の不適正処理や土砂の堆積に関する監視パトロール及び、立入検査、指導、啓発パンフレット作成	主な実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>産業廃棄物等に係る申請・届出・報告等の受理</td> <td>1,363</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>土砂の堆積に係る許可申請・定期報告等の受理</td> <td>20</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>立入検査の実施</td> <td>578</td> <td>件</td> </tr> </tbody> </table>		項目	実績	単位	産業廃棄物等に係る申請・届出・報告等の受理	1,363	件	土砂の堆積に係る許可申請・定期報告等の受理	20	件	立入検査の実施	578	件
項目	実績	単位													
産業廃棄物等に係る申請・届出・報告等の受理	1,363	件													
土砂の堆積に係る許可申請・定期報告等の受理	20	件													
立入検査の実施	578	件													
事業の成果【定性的評価】	産業廃棄物等の不適正処理の未然防止や住民との紛争予防、施設等の適正な維持管理を確保することにより生活環境に大きく影響を与える事案の発生を防止できた。また、土砂の堆積に係る規制を行うことで、無秩序な土砂の堆積を防止できた。														

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	立入検査実施件数			指標・目標値の説明(算定式)	産業廃棄物処理業者や土砂の堆積事案等に係る立ち入り検査の実施件数				
	単位	件	指標の種別	活動						
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度				
	実績値・達成状況	569	達成	704	達成	578	達成			
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)					
	単位		指標の種別							
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度				
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	03目	001細目	02細々目	産業廃棄物対策事業					
年度	平成30年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度	令和4年度					
予算額(A)	18,213	6,489		4,098		3,522	4,749					
決算額(B)=(C)+(D)	16,857	5,782		3,725								
財源※	特定財源(C)	534	1,120		940		1,187					
	一般財源(D)	16,323	4,662		2,785		2,335					
概算人件費(E)	49,375	43,845		42,265		39,500	39,500					
従事職員人数(人)	常勤	再任用	6.25	0.00	5.55	0.00	5.35	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	66,232		49,627		45,990		43,022	44,249				

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	15 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	十分行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
58 /60	廃棄物処理法に基づく申請に先立ち、手続条例に係る関係住民への周知等を事業計画者に適正に実施させることで、紛争予防に寄与する。 また、産業廃棄物、土砂堆積に係る定期的な監視パトロールを実施することで、生活環境に大きく影響を与える事案の発生を防止する。	3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施
		5年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 令和2年度

事業コード	43200201	事業名称	戸塚環境センター整備事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	新戸塚環境センター建設室	問い合わせ先	229-6460	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 28 年度 ~ 令和 11 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ② 廃棄物の適正処理の推進
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	直営
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	ごみ焼却施設と粗大ごみ処理施設	一般廃棄物を排出する市民及び市内事業者	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	川口市一般廃棄物処理施設整備基本計画に基づき、計画的に施設の整備を行うことで安定的なごみ処理体制の確保を図り、循環型社会の構築に資すること。	戸塚環境センター東棟等を解体し、新たなごみ焼却施設と粗大ごみ処理施設を建設する。	
令和2年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	「川口市戸塚環境センター施設整備事業者選定委員会条例」を制定し、事業者選定委員会を行った。 ・戸塚環境センター施設整備・運営管理事業の実施方針や募集要項を作成し、ホームページに公開した。 ・環境影響評価書を策定した。	項目	実績
		事業者選定委員会	4 回
事業の成果【定性的評価】	川口市戸塚環境センター施設整備事業者選定委員会を4回実施した。同委員会での内容を元に、実施方針や募集要項を作成し、ホームページに公開した。環境に及ぼす影響について、調査・予測・評価した環境影響評価書を策定した。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	実績値・達成状況					
指標②	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	実績値・達成状況					

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	05目	003細目	01細々目	戸塚環境センター整備事業	
年度	平成30年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度	令和4年度	
予算額(A)	86,826	84,786		55,389		46,364	107,613	
決算額(B)=(C)+(D)	86,458	84,033		51,993				
財源※	特定財源(C)	28,666	27,433		3,643		5,024	
	一般財源(D)	57,792	56,600		48,350		41,340	
概算人件費(E)	73,628	73,786		73,786		79,000	79,000	
従事職員人数(人)	常勤	再任用	9.32	0.00	9.34	0.00	9.34	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	160,086	157,819		125,779		125,364	186,613	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
54 /60	○事業者選定委員会にて、引き続き審議を行い、施設整備等の請負業者を選定する。○環境影響評価書を元に、事後評価を行う。○施設整備について、周辺住民の理解を得るため、引き続き、説明会等を実施する。○当事業「整備事業」は令和3年度から「整備管理費」に引継ぎ、また「施設整備事業」「施設整備関連事業」を新規事業とする。	3年度 現状維持で実施 4年度 現状維持で実施 5年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和2年度

事業コード	43200301	事業名称	厚生会館施設管理費	事業区分	通常事業
担当	環境部	戸塚環境センター	問い合わせ先	295-0131	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	昭和 52 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ② 廃棄物の適正処理の推進
根拠法令等	川口市厚生会館設置及び管理条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	全部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	(公社)シルバー人材センター	市民(主に戸塚環境センター周辺の地域住民)	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	戸塚環境センター焼却炉の余熱を利用し、市民の健康保持と福祉の増進に寄与するとともに、地域住民還元施設として設置運営	入浴施設及び交流スペースを提供している。施設を利用する際、大人220円、60歳以上100円、小人100円の使用料を徴し、月曜祝日を除き、午前10時から午後5時開館	
令和2年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	新型コロナウイルス感染予防のため休館していたが、3月23日より入浴施設の運営再開し、施設内修繕も運営再開前に実施。	項目	実績
事業の成果【定性的評価】	新型コロナウイルス感染予防のため休館していたが、3月23日より運営再開後は、エネルギーの再利用を通じて、周辺地域住民にごみ処理施設への理解を深めてもらった。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	入館者数			指標・目標値の説明(算定式)	実績による入館者数を目標値とするもの。				
	単位	人	指標の種別	結果						
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度				
	実績値・達成状況	25,998	未達成	22,023	未達成	107	未達成			
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)					
	単位		指標の種別							
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度				
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	06目	002細目	02細々目	厚生会館施設管理費			
年度	平成30年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度	令和4年度			
予算額(A)	14,517	16,548		39,788		16,785	16,785			
決算額(B)=(C)+(D)	14,157	15,582		26,643						
財源※	特定財源(C)	2,898	2,904	2,497	2,497					
	一般財源(D)	11,259	12,678	24,146	14,288					
概算人件費(E)	632	632		632		632	632			
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.08	0.00	0.08	0.00	0.08	0.00	0.08	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	14,789	16,214		27,275		17,417	17,417			

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	11 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	どちらともいえない	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	11 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
50 /60	新型コロナウイルス感染予防のため休館していたが、3月23日より入浴施設を再開。しかしながら、施設は老朽化しているため、戸塚環境センター東棟の建替に伴って、新しい地域住民還元施設が出来るまで修繕しながら使用していく必要がある。	3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施
		5年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和2年度

事業コード	43200501	事業名称	戸塚環境センタープラント運営費			事業区分	通常事業
担当	環境部	戸塚環境センター	問い合わせ先	295-0131	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ② 廃棄物の適正処理の推進
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例・同施行規則

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	ごみ焼却施設・破砕機設備	家庭系廃棄物を排出する市民 事業系一般廃棄物を排出する事業者	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	廃棄物を公衆衛生や生活環境の保全上、支障が生じないように処理することを目的とする。	市内の家庭や事業者から排出される廃棄物を安定的かつ適正に処理するため、ごみ焼却施設・破砕機設備の適正な運転管理及び保守管理を行う。	
令和2年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	ごみ焼却施設・破砕機設備の適正な運転管理 ごみ焼却施設・破砕機設備の適正な点検整備	項目	実績 単位
事業の成果【定性的評価】	ごみの処理を停滞させることなく、安全かつ安定的に運転することができた。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	ごみ処理量			指標・目標値の説明(算定式)	予算編成時の計画ごみ焼却量				
	単位	トン	指標の種別	結果						
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度				
	実績値・達成状況	64,432	達成	64,300	達成	60,308	未達成			
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)					
	単位		指標の種別							
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度				
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	06目	004細目	01細々目	戸塚環境センタープラント運営費			
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度					
予算額(A)	865,500	869,802	932,886	941,591	944,092					
決算額(B)=(C)+(D)	856,029	860,975	889,108							
財源※	特定財源(C)	581,247	626,719	643,387	637,707					
	一般財源(D)	274,782	234,256	245,721	303,884					
概算人件費(E)	134,774	134,774	134,774	134,774	134,774					
従事職員人数(人)	常勤	再任用	17.06	0.00	17.06	0.00	17.06	0.00	17.06	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	990,803	995,749	1,023,882	1,076,365	1,078,866					

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
54 /60	本施設は、老朽化しており、適切な運転管理と点検整備を実施することで、一般廃棄物を安全かつ安定的に処理していかなければならない。	3年度 現状維持で実施 4年度 現状維持で実施 5年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 令和2年度

事業コード	43200701	事業名称	戸塚環境センターごみ処理事業			事業区分	通常事業
担当	環境部	戸塚環境センター	問い合わせ先	295-0131	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ② 廃棄物の適正処理の推進
根拠法令等	川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	一部委託	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	ごみ焼却施設から搬出される焼却灰等	家庭系廃棄物を排出する市民 事業系一般廃棄物を排出する事業者		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)		
	廃棄物の適正処理	焼却及び破砕による中間処理後の残渣物の再資源化処理及び最終処分		
令和2年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	埋立による最終処分を削減するため、焼却灰等を溶融スラグや建設資材にする等、再資源化を推進。	項目	実績	単位
事業の成果【定性的評価】	複数の最終処分場や再資源化処理プラントと委託契約を締結し、中間処理後の残渣物について安定的な処分を行った。			

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	焼却灰・残渣金属の再資源化推進			指標・目標値の説明(算定式)	再資源化量の実績のみ(朝日環境センターとごみ焼却を補完し合っているため、再資源化の目標値設定は不可能)			
	単位	トン	指標の種別	活動					
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度			
	実績値・達成状況	7,643.10	7,687.94	7,138.76					
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)				
	単位		指標の種別						
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度			
	実績値・達成状況								

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	06目	006細目	01細々目	戸塚環境センターごみ処理事業			
年度	平成30年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度	令和4年度			
予算額(A)	214,317	238,365		237,542		259,072	259,072			
決算額(B)=(C)+(D)	210,905	238,191		225,176						
財源※	特定財源(C)	3,921	3,749		3,731		3,468			
	一般財源(D)	206,984	234,442		221,445		255,604			
概算人件費(E)	8,374	8,374		8,374		8,374	8,374			
従事職員人数(人)	常勤	再任用	1.06	0.00	1.06	0.00	1.06	0.00	1.06	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	219,279	246,565		233,550		267,446	267,446			

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
54 /60	残渣物の再資源化を推進することが課題。 今後も残渣物の再資源化研究を進め、安定的かつ適正なごみ処理を行う。	3年度 現状維持で実施 4年度 現状維持で実施 5年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和2年度

事業コード	43200801	事業名称	朝日環境センタープラント運営費			事業区分	通常事業
担当	環境部	朝日環境センター	問い合わせ先	258-1110(#35-1423)		新規・継続	継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度	～	年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ② 廃棄物の適正処理の推進		
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例・同施行規則		

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの		実施形態	一部委託	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)		受益者(最終的に受益を受ける人)		
	ごみ焼却施設		家庭系廃棄物を搬出する市民 事業系一般廃棄物を排出する事業者		
事業の概要	事業の目的(何のために)		事業の内容(事業期間を通して何をするのか)		
	廃棄物を公衆衛生や生活環境の保全上支障が生じないように処理することを目的とする。		市内の家庭や事業者から排出される廃棄物を安定的かつ適正に処理するため、ごみ焼却施設の適正な運転管理及び保守管理を行う。		
令和2年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)		主な実績		
	ごみ焼却施設の適正な運転 ごみ焼却施設の適正な点検整備		項目	実績	単位
			ごみの焼却処分	90,592.26	トン
事業の成果【定性的評価】	ごみの処理を停滞させることなく、安全かつ安定的に運転することができた。				

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称		指標・目標値の説明(算定式)					
	単位		指標の種別					
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
	実績値・達成状況							
指標②	名称		指標・目標値の説明(算定式)					
	単位		指標の種別					
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
	実績値・達成状況							

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	06目	005細目	01細々目	朝日環境センタープラント運営費	
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度			
予算額(A)	1,306,702	1,400,164	1,400,514	1,459,503	1,397,562			
決算額(B)=(C)+(D)	1,254,573	1,359,416	1,358,427					
財源※	特定財源(C)	804,875	784,490	733,665	727,525			
	一般財源(D)	449,698	574,926	624,762	731,978			
概算人件費(E)	18,170	18,170	18,170	18,170	18,170			
従事職員人数(人)	常勤	再任用	2.30	0.00	2.30	0.00	2.30	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	1,272,743	1,377,586	1,376,597	1,477,673	1,415,732			

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
54 /60	稼働開始から18年を経過したことから各設備の劣化が激しく、大規模改修までの間も相当の補修費がかかる見込みであるが、本事業で実施する日常の適正な運転管理と適切な定期点検整備により、コストを最小限にとどめる。	3年度 現状維持で実施 4年度 現状維持で実施 5年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和2年度

事業コード	43201001	事業名称	朝日環境センターごみ処理事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	朝日環境センター	問い合わせ先 258-1110(#35-1423)	新規・継続	継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ② 廃棄物の適正処理の推進
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例・同施行規則

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	ごみ焼却施設から搬出される資源物・焼却灰等	家庭系廃棄物を排出する市民 事業系一般廃棄物を排出する事業者	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	廃棄物を公衆衛生や生活環境の保障上支障が生じないように処理することを目的とする。	ごみ焼却施設から搬出される資源物の運搬及び焼却灰等の運搬・処分	
令和2年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	ごみ焼却施設から資源物である溶融スラグの搬出 ごみ焼却施設から搬出される焼却灰等の運搬・埋立処分	項目	実績 単位
		ごみの埋立処分	4,246.61 トン
事業の成果【定性的評価】	安全に運搬及び埋立処分を行った。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	実績値・達成状況					
指標②	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	実績値・達成状況					

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	06目	006細目	02細々目	朝日環境センターごみ処理事業
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
予算額(A)	208,787	203,607	207,603	223,535	223,535		
決算額(B)=(C)+(D)	180,403	194,425	203,424				
財源※	特定財源(C)	0	0	0	0		
	一般財源(D)	180,403	194,425	203,424	223,535		
概算人件費(E)	3,950	3,950	3,950	3,950	3,950		
従事職員人数(人)	常勤 再任用	0.50 0.00	0.50 0.00	0.50 0.00	0.50 0.00	0.50 0.00	0.50 0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	184,353	198,375	207,374	227,485	227,485		

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
56 /60	最終処分場を有しない本市においては、他区域における処分場の確保が大きな課題であるが、各場の残余期間等、当面の問題はなく、引き続き安定的な最終処分の実施に努めていく。	3年度 現状維持で実施 4年度 現状維持で実施 5年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 令和2年度

事業コード	43201101	事業名称	鳩ヶ谷衛生センターごみ処理事業		事業区分	通常事業
担当	環境部	鳩ヶ谷衛生センター	問い合わせ先	281-5043	新規・継続	継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ② 廃棄物の適正処理の推進
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、廃棄物の減量及び適正処理に関する条例、同施行規則

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	一部委託	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	粗大ごみから分別された資源物等	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の一般廃棄物のうち粗大ごみを自己搬入する川口市民 ・事業系一般廃棄物のうち粗大ごみを自己搬入する市内事業者 		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・粗大ごみを受理、分別、運搬し廃棄物の適正な処理を行う。 ・粗大ごみを公衆衛生や生活環境の保全上支障が出ないよう処理することで市民の健康で快適な生活を確保する。 ・粗大ごみの再生利用を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・粗大ごみの受理、分別、運搬 ・資源物の売却 		
令和2年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	<ul style="list-style-type: none"> ・市民等が自己搬入した粗大ごみを分別し、再生利用できないものは、市内の環境センターに運搬し処分した。 ・鉄やアルミなどの資源物を市内の専門業者に売却した。 	項目	実績	単位
事業の成果【定性的評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・粗大ごみを受理した重量 1983.02トン ・資源物(鉄、アルミ、ケーブル類)の売却 重量 305.00トン 売却額 980,725円 	粗大ごみ自己搬入の受理実施日数	214	日

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	資源物(鉄、アルミ、小型家電)の売却			指標・目標値の説明(算定式)	粗大ごみから分別した資源物を市内の専門業者に売却し、売上げ金を市政の財源に充てる。 目標値・・・該当年度の歳入予算額				
	単位	金額(円)以上	指標の種別	結果		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値				2,642,000	2,775,000	2,226,400	897,000		
	実績値・達成状況				2,278,038	未達成	888,750	未達成	980,725	未達成
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)					
	単位		指標の種別			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値									
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計		04款		02項		06目		006細目		03細々目		鳩ヶ谷衛生センターごみ処理事業		
年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度						
予算額(A)	37,499		38,587		41,187		43,306		41,952						
決算額(B)=(C)+(D)	37,198		38,018		41,002										
財源※	特定財源(C)	2,278		889		981		897							
	一般財源(D)	34,920		37,129		40,021		42,409							
概算人件費(E)	28,309		25,465		25,465		24,596		24,596						
従事職員人数(人)	常勤	再任用	1.71	4.00	1.35	4.00	1.35	4.00	1.24	4.00	1.24	4.00	1.24	4.00	
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	65,507		63,483		66,467		67,902		66,548						

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
54 /60	資源物売却は市場が不安定であることから、売却できる品数減少、価格低下が続いている。今後も廃棄物の分別を徹底し、資源物確保を強化する。また、自己搬入の増加から、混雑時は車両誘導委託を導入し、場内外の車両整理、搬入物のスムーズな内容確認を図った。今後も利用者が安全で効率的に搬入ができるよう対策を検討する。	3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施
		5年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 令和2年度

事業コード	43201251	事業名称	し尿処理施設管理費			事業区分	通常事業
担当	環境部	鳩ヶ谷衛生センター	問い合わせ先	281-5043	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ② 廃棄物の適正処理の推進
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、廃棄物の減量及び適正処理に関する条例、同施行規則

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	一部委託	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	・市内で発生するし尿、浄化槽汚泥 ・川口市一般廃棄物収集運搬業許可業者(し尿・浄化槽汚泥)	・市内のトイレ(し尿汲取り方式、浄化槽方式)を利用する全ての市民		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)		
	・市内から収集したし尿、浄化槽汚泥を適切に処理し、公衆衛生や生活環境の保全上支障が出ないよう、市民の健康で快適な生活を確保する。 ・し尿、浄化槽汚泥処理に伴う環境への負荷を削減する。	・し尿処理施設の運転管理、維持管理 ・し尿処理施設周辺の環境衛生の保全 ・処理後発生する脱水汚泥の肥料・堆肥への再資源化		
令和2年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	・許可業者が市内から収集したし尿、浄化槽汚泥を処理し、無色透明できれいな処理水を河川に放流した。 ・処理後発生する脱水汚泥を専門業者(市外)へ運搬し、再資源化した。 ・水質などの環境測定を定期的に実施した。	項目	実績	単位
事業の成果【定性的評価】	・し尿、浄化槽汚泥の搬入量 36497.42キログラム、再資源化業者への搬出量 867.16トン ・水質、騒音、振動、臭気、放射性セシウムの環境測定の結果は、全て法定基準値内で適正であった。	し尿、浄化槽汚泥の受入れ日数	295	日
		環境測定分析の実施回数(放流水質)	12	回/年

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	環境測定の結果			指標・目標値の説明(算定式)	水質、騒音、振動、臭気、放射性セシウムの環境測定について、年間を通じて法定基準値内を目指す。					
	単位	-	指標の種別	結果							
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度					
	実績値・達成状況	全て適正	全て適正	全て適正	全て適正	全て適正					
指標②	名称	脱水汚泥の含水率(年間平均)			指標・目標値の説明(算定式)	廃棄物として排出する量を減らすため、また再資源化に適した状態にするため、脱水汚泥の含水率(年間平均)75%以下を目指す。					
	単位	%以下	指標の種別	結果							
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度					
	実績値・達成状況	75	達成	74.90	達成	74.50	達成				

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	08目	002細目	02細々目	し尿処理施設管理費			
年度	平成30年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		
予算額(A)	211,212	224,076		220,588		197,435		197,435		
決算額(B)=(C)+(D)	205,157	213,386		209,346						
財源※	特定財源(C)	133	151	145	115					
	一般財源(D)	205,024	213,235	209,201	197,320					
概算人件費(E)	14,852	15,405		15,405		15,089		15,089		
従事職員人数(人)	常勤	再任用	1.88	0.00	1.95	0.00	1.95	0.00	1.91	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	220,009		228,791		224,751		212,524		212,524	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
54 /60	施設のリニューアル工事から10年以上が経過し、機器の経年劣化による不具合発生が懸念される。計画的に各機器の点検整備を行うと共に、改修工事が必要なものについては、し尿処理施設改修事業で計画的に整備を進め、故障や事故による搬入停止等を未然に防ぐ。	3年度 現状維持で実施 4年度 現状維持で実施 5年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 令和2年度

事業コード	43201301	事業名称	し尿収集事業			事業区分	通常事業
担当	環境部	鳩ヶ谷衛生センター	問い合わせ先	281-5043	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ② 廃棄物の適正処理の推進
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、廃棄物の減量及び適正処理に関する条例、同施行規則

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	一部委託												
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの) ・市内のし尿汲取り世帯、事業者 ・市内のし尿汲取り実施業者(し尿処理事業許可業者)	受益者(最終的に受益を受ける人)	・市内のし尿汲取り世帯、事業者												
事業の概要	事業の目的(何のために) ・市民の生活環境や公衆衛生に支障が生じないよう、し尿を収集運搬し適切に処理する。 ・水害など災害時に市民の環境衛生を保持するため応急汲取りを実施する。 ・し尿汲取り世帯の費用負担を軽減し、業者を育成する。	事業の内容(事業期間を通して何をするのか) ・委託業者によるし尿収集運搬(鳩ヶ谷地区、朝日3丁目) ・し尿処理事業許可業者への助成金の交付													
令和2年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか) ・委託業者による、し尿収集運搬業務(鳩ヶ谷地区、朝日3丁目の一部) ・し尿処理事業許可業者への助成金交付 ・し尿汲取り世帯に対する、し尿収集運搬手数料の納付管理、督促	主な実績	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>し尿収集運搬の実施(鳩ヶ谷地区)</td> <td>9,123</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>し尿収集運搬の実施(朝日3丁目の一部)</td> <td>48</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>し尿収集運搬手数料未納者への電話、訪問</td> <td>2</td> <td>回/週</td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	単位	し尿収集運搬の実施(鳩ヶ谷地区)	9,123	件	し尿収集運搬の実施(朝日3丁目の一部)	48	件	し尿収集運搬手数料未納者への電話、訪問	2	回/週
項目	実績	単位													
し尿収集運搬の実施(鳩ヶ谷地区)	9,123	件													
し尿収集運搬の実施(朝日3丁目の一部)	48	件													
し尿収集運搬手数料未納者への電話、訪問	2	回/週													
事業の成果 【定性的評価】	・し尿収集運搬手数料の納付額(滞納繰越分を含む) 2,050,340円 ・市民の費用負担軽減のため、し尿処理事業許可業者14者へ助成金(応急汲取り分を含む)を交付 5,402,940円														

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	し尿収集運搬手数料の納付額			指標・目標値の説明(算定式) 該当年度のし尿収集運搬手数料の歳入予算額(滞納繰越分を含む)に対して90%以上の納付を目指す。 目標値…令和2年度予算額×0.9=1,858,000円		
	単位	円以上	指標の種別	結果			
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度		令和3年度	令和4年度
	実績値・達成状況	2,493,670	達成	2,250,610		達成	2,050,340
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)		
	単位	指標の種別					
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度		令和3年度	令和4年度
	実績値・達成状況						

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	08目	003細目	01細々目	し尿収集事業			
年度	平成30年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		
予算額(A)	17,188	16,600		16,163		15,591		15,591		
決算額(B)=(C)+(D)	16,224	15,601		15,497						
財源※	特定財源(C)	2,515	2,336		2,050		1,865			
	一般財源(D)	13,709	13,265		13,447		13,726			
概算人件費(E)	7,505	7,505		7,505		6,557		6,557		
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.95	0.00	0.95	0.00	0.95	0.00	0.83	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	23,729	23,106		23,002		22,148		22,148		

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	13 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	どちらもいえない			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらもいえない	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
52 /60	し尿収集事業は、災害時等には市民の健康と公衆衛生の保全のため重要となるが、下水道の普及により汲取り世帯が減少し、し尿処理許可業者の収集効率の低下と負担増加が問題となっている。し尿処理事業助成金の交付等により、事業が安定して継続できるよう対策を図っていく。	3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施
		5年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 令和2年度

事業コード	43201401	事業名称	PCB廃棄物調査指導事業			事業区分	通常事業
担当	環境部	産業廃棄物対策課	問い合わせ先	228-5380	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	令和 元 年度 ~ 令和 9 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ② 廃棄物の適正処理の推進
根拠法令等	ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律

2 事業概要

事務分類	法定受託事務	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	PCB廃棄物等を所有している事業者 電気工事事業者	市民等 PCB廃棄物を保有している事業者	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)	
	高濃度のPCB廃棄物は、その種類ごとに令和3年度または令和4年度末までに、また、低濃度のPCB廃棄物は令和9年度末までに処分しなくてはならない。そのため、処分対象者を把握し指導することで、期限までの適正処理を図る。	PCB廃棄物の保有状況の把握及び適正処理の指導	
令和2年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	・PCB廃棄物等の保有状況の把握(掘り出し調査) ・PCB特措法に係る届出等の受理 ・PCB廃棄物保管事業者等への立入検査等による適正処理の指導 ・パンフレットの新規作成、関係団体への配布等による啓発	項目	実績 単位
		PCB保有状況確認調査(変圧器等・安定器)	3,773 件
事業の成果 【定性的評価】	PCB廃棄物の保有者を把握し指導したことで、PCB廃棄物の適正処理が進化した。また、PCB廃棄物の期限内適正処理について広く啓発したところ、国提供のリストに掲載されていないPCB廃棄物保有者の掘り出しに繋がった。	PCB特措法に係る届出等の受理	493 件
		立入検査の実施	33 件

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	PCB廃棄物所有状況調査の進捗(変圧器等)			指標・目標値の説明(算定式)	PCB廃棄物の所有が疑われるものの、所有状況を把握出来ていない事業者の件数(変圧器・コンデンサ)(H30当初 約1,300件)(R1 P協データ 600件分が増加)の減。				
	単位	件(以下)	指標の種別	成果						
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度				
	実績値・達成状況	650	800	100	0	0				
		787	未達成	776	達成	303	未達成			
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)					
	単位		指標の種別							
	目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度				
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	4 款	2 項	3 目	1 細目	4 細々目	PCB廃棄物調査指導事業			
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度					
予算額(A)	—	34,809	23,029	16,914	16,742					
決算額(B)=(C)+(D)	—	34,761	20,315							
財源※	特定財源(C)	—	0	0	0					
	一般財源(D)	—	34,761	20,315	16,914					
概算人件費(E)	—	10,270	14,220	22,120	22,120					
従事職員人数(人)	常勤	再任用	1.30	0.00	1.80	0.00	2.80	0.00	2.80	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	—	45,031	34,535	39,034	38,862					

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	15 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	十分行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
58 /60	処理期限が迫る中、調査票への回答を渋る事業者等が一定数存在するため、変圧器等の掘り越し調査では、訪問調査を中心にする。 期限内処理を達成するため、専門家と協力した立入調査等により、効率的・積極的に処理責任者に処理を働きかける。	3年度 現状維持で実施 4年度 現状維持で実施 5年度 現状維持で実施